

令和6年度 第9回崇化館地域会議 会議録

■日 時 令和7年1月21日(火) 午後6時30分～午後8時00分

■場 所 崇化館交流館 4階 第2会議室

■出席者 <委員> 板倉 しをり 伊藤 貴史 井上 眞一 木村 友浩
 柘植 伸夫 戸田 博基 永山 慎二 服部 啓二
 藤井 康博 藤村 匡泰 本多 鋭孝 松山 純成
 山内 由美子
<欠席> 稲本 泰孝 太田 眞由美 永井 靖美 林本 基
<事務局> 杉浦 智文(拳母事務所長)
 田嶋 優俊(地域支援課担当長) 青木 剛(地域支援課主任主)

■次 第

- 1 開会 豊田市民の誓い唱和
- 2 会長あいさつ
- 3 課題候補選定の論点整理Ⅳ
(1) 第8回地域会議グループ討議意見の確認と評価
(2) 今後の進め方
- 4 連絡事項

■議 事(要約)

3 課題候補選定の論点整理Ⅲ

- (1) 第8回地域会議グループ討議意見の確認と評価

前回の各グループの発表を類型化してまとめた内容について発表者に確認を行うとともに発表内容に対する質疑応答、意見交換を行った。

内容は別紙のとおり。

- (2) 今後の進め方

地域からの意見聴取について過去の取組を紹介し、取組の内容を踏まえて今後の展開について協議を行った。

内容は別紙のとおり。

4 連絡事項

- ・地域会議委員任期2年の1年目であるが諸事情による交代の意向を確認した。

《今後の予定》

●令和6年度 第10回崇化館地域会議

日 時：令和7年2月18日(火) 午後6時30分～

場 所：崇化館交流館 4階 第2会議室

(1) 第8回地域会議グループ討議意見の確認と評価

会長 本日の協議は、意見聴取を実施するとしての具体的な「目的」「対象」「方法」「利用方法」に関し、各グループから出された意見について内容の確認と評価を行い各項目の絞込みを行う。

<意見聴取の目的について>

事務局 意見聴取の目的について報告し各グループに確認した。 意見、質疑無し。

<意見聴取の対象について>

事務局 意見聴取の対象について報告し各グループに確認した。

委員 今後の自治区の活動等に参画してもらいたいという人を探すのであれば、20代～40代は尻込みする人がいるかもしれないので若手に絞ってみてはどうか。

委員 外部の意見、状況が異なる合併町村とかの意見も聞けるといい。

<意見聴取の方法について>

事務局 意見聴取の方法について報告し各グループに確認した。

委員 20代なら20代対象にテーマを決めて、しっかり分けないと過去のアンケートをみても答える年代が決まってしまうし、29歳以下は地域会議を知らないという状況がある。今後、このまちに住んでいく若い世代を巻き込むことが重要で、そのために例えば大学でこういうことを勉強している人たちに協力してもらって、直接若い人同士が話をすれば発展的な事に繋がるかもしれないのでテーマを決めて専門の学生たちをお願いして意見を集約したらどうか。

委員 アンケートは目的によって問いかけが変わってくるものだから、こういう目的でその後こういう行動に繋がりたいからこういうアンケートを取りたいというようなアンケートそのものの内容を構築していくことが必要ではないかと思う。過去のアンケートを見る限りではこの後何も続いていないようだ。

委員 過去のテーマも大きくは二つで、一つはこの地域会議を知っていますかということ、もう一つはどんなことに問題点、課題を感じていますかというアンケートを取っている。そのあとどうなったかわからない。

委員 今も中心市街地が活性化すべきだという話があり、17年前も同じ話があって何故かなと考えさせられる。地域会議が知られていないのは結果を出していないからで17年前の意見に対してなにか結果を出していたら少しは知ってもらえたはず。

委員 仮に課題は中心市街地の活性化が足りないことと皆が思っているのならそれについて議論して来られたのではないか。今同じアンケートをしても多分同じような結果になるのではないか。

委員 2年で委員が交代するいうシステムだと、なかなかアンケートを取るという目的が伝わっていかないからそのところを市役所がずっと繋げてくれるとよい。

委員 市役所は議論の主体になれないから難しい。地域会議が主体なのでメンバーが変わっていくとしても市役所が議論の方向は誘導できない。

事務局 協議の結果なにをするのかは地域課題解決事業ということになるが、事業は地域会議が取り組むものではなくて共働という形で実施する。その中で共働の主体というものが成立すれば、意見を聴取して終わってしまうことは無いと思う。

委員 意見聴取について回覧とか街頭で聞く他に何かしら子育て世代だとか若い人たちが来れるようなイベントを最初から企画してしまっってそのイベントに来てくれた人

たちに、主催はこの崇化館の地域を考える私たちが、地域に活性化して欲しいからやっているんです。参加してくれる皆さんこういう取り組みをこれからも一緒に考えてくれませんかというような形を最初から見せるというのも手かもしれない。

<意見の利用方法について>

事務局 意見の利用方法について報告し各グループに確認した。質疑無し。

事務局 意見聴取の方法、対象というのは目的によってある程度決まってくると考えられる。人材を掘り起こしていくという意見と、地域に何を求めているのか、どんな不安があるのか、どうしたら「地域間交流」や「世代間交流」ができるのかといった意見がある。実際の問いかけとしては「人材の掘り起こし」という部分と「地域に何を求めているのか」とか「不安は何か」を聞くという部分では少し視点が異なると思われるので、どういう目的とするかをご協議いたしたい。

委員 イベントは我々だけでは企画が困難だと考えられる。例えば、先日、福祉施設のイベントに大学の建築関係の学生が参加していて、地域の高齢者が集まる場の研究をしていて参考に手伝いに来たということであった。こうした学生に企画を依頼してはどうか。小さくても継続するイベントに繋がれば良いと思う。

委員 新たにイベントを起こさずに既存のイベントを利用してはどうか。例えば「二十歳のつどい」に合わせて、集まった二十歳の子に「大人になっていくときに、何をやっていきたいか」というようなアンケートの取り方もありだと思う。

委員 アンケートがどんな流れになるか分からないが、希望者には最後に集まってもらって討論会みたいなことをやってもらうというのはあるかもしれない。

委員 各グループが「意見を集める」と言ったが、それはこの会議でテーマを決められないからそのテーマを決めるためにみんなの意見を聴取して、「皆、今この地域をこうしたいと思っているのだ」ということを知るための意見聴取をしようということではなかったか。

事務局 住民の皆さんからのまちづくりに対する意見を聞いていないという発言があつてここだけではなくて他の皆さんからの意見を聞くということで始まった。

委員 前回のアンケート同様、中心市街地の活性化という意見が出てくると思う。そうならないために、今の若者たちがこの地域に何を求めているかを聴取しようということではなかったか。だから具体的なことを決めてしまうと、この数カ月自分たちがやってきたことはなんだったのという話になってくるのではないか。

事務局 前回、意見聴取の目的はという問いかけをさせていただき、各グループから、こんな目的をという意見が出たので、この中で絞り込む必要があるかという問いかけをさせていただいたところ出てきた意見の全体を通して人材の掘り起こしということがあるのかなというふうに考えている。聞き方として、出された意見以外とか、何でも聞くということするのは議論をお願いしたい。

委員 アンケートの目的が人材の掘り起こしであったらどういう質問になるのか。地域にとって人材の掘り起こしというのはアンケートを取っていくことによってこういう世代のこういう人たちがいるということが解ってくるという、後から付いてくることではないか。

(2) 今後の進め方

事務局 意見聴取の目的のところはどうせなら若い人を巻き込むきっかけにしようというものが付いてしまっている。一方で普通にアンケートを行うと前回同様、中心市街地活性化と言った話が出てくるだろうがそれが本当にみんなの意見なのか、もしかしたら若い人の意見をもっと聞かないといけないのではないかとすることで、

若い人に聴けるような意見のとり方を検討していったらいいのではないかという話になっていると思う。であれば目的は、問題を聞く、色々な人の意見を聞くということでもいいのではないかと、それで、今回はやはり若い人にできるだけ聞いた方がいいかもしれない、普段聞いているつもりでアンケート取っても結果として前回は若い人の意見が聞けていないから、若い人の意見が聞ける聴き方にしようか、では、どういう方法で聴いたら若い人の意見が聞けるのかという話になっていくと思う。そんな話で目的はそれでいく、次に対象をどうしようというふうに進めてもいいと考える。

委員 前回の失敗なくすために、活性化するために何をするか最初から選択肢を並べずに自由に記載してもらおう、まとめる側としては面倒であるがそういう聞き方をした方がいいのではないかと。

委員 そうすると本当にアンケートが良いのか。集まってもらって「今日は皆さんにこういうテーマでフリーにご意見を伺いたい」という場をいきなり設けるか。

委員 いきなり設けるか、あえて匿名で答えさせてその発表会を行いますと言ってハードルを下げてから来させるか。いきなり来てくださいというとハードルが高いので、一歩踏み出してからの方が来やすいのではないかと。

委員 あえて対象を若手に限るような若手が答え易くなるようなアンケートにした方がいいかもしれないと、いきなり回覧とかアンケートが来たとして、崇化館の未来をどう考えるかという、匿名でも答えるにはハードルが高い。そこが逆に30代の皆さんにお答えいただきたいとか、露骨にそう書いてある方がその世代が書きやすくなるか、自分の世代に聞いているのかということになって答え易いかもしれない。世代の限定がいいことなのかかわからないし対象を若手とすると人材発掘という尾ひれになるかもしれないが。もし、アンケート取るなら「より活性化させるにはどんなことがいいですか」ぐらいざっくばらんに聞いた方が色々な意見が聞けるかもしれない。

委員 前回のアンケートについて17年前に60代の人たちだったら、今の状況は十分活性化していると見えるのではないかと考えられないこともない。どことどこを比べるかという話になるので社会情勢が変わっている中でその辺の評価し難い。なるべく若い人がこうしたいという意見でないと、高齢者がこうしたいと言っていることとは全然意味が違う。

委員 アンケートの聞き方によってすごく誘導してしまう部分もあったりするので、何を聞くのかということとはちゃんと議論するべきだと思う。

委員 いくつか大きいカテゴリーは書きつつ、それを選んだ具体的な思いか何かあれば少しお書きくださいと言った感じにする。

委員 例えば、我々で崇化館地域の住みやすい街づくりをしていくためのカテゴリーとして子育て部門にみんなで意見を出し合っ、それぞれの段階でPTAの立場だったら子どもたちが育ちやすい環境を作るためのアンケートを取る、もう少し若いと大学生なら、もっと遊ぶ場所が欲しいとして、ではどんな意見が欲しいよと言ったことを我々で考えて、それをアンケートでなにか取れるようにするようなカテゴリーを検討していくといいと思う。

委員 さらに何か細かくあるのだったら書いて下さいという感じ。

委員 子育ての地域と共働き・子育てしやすいランキング東海地区で豊田が1位だったという過去の歴史がある。この中の良かったという内容がほぼ崇化館地域で賄えるものばかりで、だったら「子育てするならやっぱり崇化館」というようなアンケート、こうなるためには何がいきますか、そんなふうにしていくと、子育て世代は答え易いのではないかと。中心市街地を活性化という意見は、駅前だけを中

心市街と捉えるではなくてこの地域全体を中心市街地と捉えて、じゃあここを活性化するにはどうしたらいいというようなアンケートをとるとかそういうことをやっていくと色々なテーマが見つかるのではないかと思う。

事務局 今後、意見聴取を実施する、意見聴取なのか、アンケートなのか、イベントを開催し対面で聞くのか、あるいは学生さんたちにお問い合わせするのかと言ったことも含め議論を進めていただきたい。

<令和7年度地域課題解決事業について>

事務局 令和7年度地域課題解決事業はマイタイムラインの普及啓発という計画になっているが避難場所がここでいいかという不安の中で見直しを相談したい。

委員 ハザードマップ想定 of 災害は自治区レベルの対策というより、市がハードレベルで考えるべきことであって、自治区全体でそういう意見を出していかないと、そもそも自治区にお願いするという話を超えていると思う。地域としてまともに取り合うべきなのか疑問を感じる。

委員 市がもっと積極的に対策すべきことに対して何故それを自治区に委ねるのか、どこまで行っても答えは出ない。千年に一度の水害を真摯に考えて答えを出せというのだったら、答えは自治区では出せませんと言うしかないではないか。

事務局 確かに大規模災害時の市の役割は大きいと思うが、まずはご自分の命を守るということで住民に意識付けが重要だと考える。

委員 それは市が全市民に対して延々と啓発すればよい。それを自治区にお願いするというの違和感がある。市は県が指定したから自治区にお願いするというのはおかしい話で、全自治区が市に対して無理だというべきだと思う。市が指定したいのなら全体分のバスを用意して平面で逃げられるようにしてくれとそれ以上自治区でやれることがあるのかという話ではないか。

委員 各自治区は要支援者がどれだけいるのか把握しているはずなので、対象の避難民がどこに住んでいる、バスを市にチャーターしてもらおうとして、どこにどう集まって、どうピックアップしてもらおう、どこへ逃げる。自分の自治区はここへ集合するからここへきて下さい。そういうところは各自治区でやれると思う。

委員 自治区が可能なのはそういったソフト部分。結局ハード部分を市が解決できないのなら啓発は市がすべき。どう考えても自治区に丸投げすべきではない。

委員 現実的には崇化館地区の水没しない小中学校に一万人は収まらないということは市役所もはっきり数字を出しているので、結局どこまで避難するのかという話だけで、やはり何らかの指定された避難所へ行くしかないということになる。

委員 ハザードマップを決めてしまっているので、そのエリアの人に14メートル水没するから、避難してくださいと延々と言い続けるしかないのではないか。それを正しいとして言い続けるのであったら高齢者がどう避難するのか考えるべきだ。

委員 令和7年度の地域課題解決事業は水害対策を行うと決まっているというストーリーがある中で、どんな事業をやるか考えていきたいという話か。いつ頃から決めていつごろ実施するのか。

事務局 昨年は11月30日に防災フェアを開催しているが、これを継続実施するのかと言った議論で4月頃までに来年度計画を見直していく。地域会議提案に対する計画を見直す作業なので事前に相談させていただいた。